

平成23年度
国立情報学研究所実務研修 報告

山本 豪(鳴門教育大学)
H24.9.25

自己紹介

- 1981年1月生まれ(現在31歳)
- 2003年3月
岡山大学教育学部卒業(司書資格は通信教育課程で取得)
- 2003年10月～
徳島大学附属図書館 (図書館システム管理・Webサイト管理等)
- 2006年4月～
" (各種講習会・研究室貸出関連等)
- 2007年7月～
鳴門教育大学附属図書館 (ILL受付・図書館システム管理等)
- 2008年4月～現在
" (図書目録・図書館システム管理・リポジトリ関連等)

研修テーマ

- 「 学術情報流通基盤整備に関する課題の解決を目的とし、具体的には本人の希望に基づき相談の上決定」

山本のテーマ：

オンライン共同分担目録方式の最適化に向けて

-国立国会図書館「公共的書誌基盤」活用可能性の検討-

- 目録作業には高いコストがかかっている
- しかも作業内容が他機関(NDL等)と重複している
- 外部書誌データのより一層の活用が検討されるべき
- 2009年度に行われた事前登録書誌事業は同様の考えのもとに行われたが、その方法はやはり人的コストをかけるものであった



外部書誌データを最大限に活用＝機械的に総合目録DBに
(参照ファイルとしてでなく)投入する場合の課題を確認したい！

作業課題

①国立国会図書館の提供する「公共的書誌基盤」書誌をソースデータに想定し，CAT形式へのデータ変換のためのマッピング表を作成する

②作成したマッピング表より，国立国会図書館の書誌をCATに適用するにあたっての課題を見出す

公共的書誌基盤とは？

2010年春、活字文化議員連盟や日図協等の団体から書誌データに関する要望が表明

「我国を代表する書誌データの一元化に努める」「書誌データの一元化はNDLのJAPAN/MARCによるべき」「標準MARCはもっと迅速に提供されるべき」「標準MARCは無償もしくは低廉な価格で供給されるべき」

NDL：「NDLの書誌情報を迅速にかつ無償で公共図書館、学校図書館等に提供し、広く社会で活用されることを目指す『公共的書誌情報基盤』の推進を行っていくこととしました」

迅速

これまでは納本～書誌データ提供までに最低30日以上

無償

日図協経由でJAPAN/MARCの週次提供を受けると42万円/年

迅速の実現

新着書誌情報
(作成中書誌)



作成完了書誌

の2段階構えで実現



納本された資料に対応するデータを出版情報(日版MARC, 東販MARC)から抜き出し, 新着書誌情報として提供してしまおう
(納本後3,4日後)

書誌作成完了時期の目安は納本から30~40日, これは縮められない

無償の実現

様々なインタフェースを用意

- 業者を介さず提供することで無償を実現
- 商用の大量利用への対応については検討中
- 有償JAPAN/MARCは存続

第一段階：NDL新着図書情報(テキスト版)の提供[2010.10～2011.11・終了済]

- 新着図書情報[13項目限定]をテキストファイルで提供

第二段階：NDLサーチでの提供[2010.8より“開発版”として稼働・2012.1.6本格稼働開始]

- OAI-PMHやRSSによる提供が可能(仕様書上は他にSRU・SRW・OpenURL・Z39.50に対応)
- 出力形式：DC-NDL
- 対象：すべての納本資料に関する新着書誌情報・作成完了書誌

第三段階：新NDL-OPACでの提供[2012.1.6稼働開始]

- NDLサーチのような多様なインタフェースはないが、検索結果からのDLが可能。
- “最近7日分”といった日付指定による集合を作り、一括DLできる仕組が用意。
- 出力形式：MARC21, 他(MARC21形式版はJAPAN/MARC MARC21版と同様のもの)
- 対象：すべての納本資料に関する新着書誌情報・作成完了書誌

現在

(ただし日付指定による一括DLが可能なのは現在は作成完了書誌のみ)

NDLのフロー

NDL業務システム(2012.1.6~)

NDLサーチ

NDL-OPAC

出版情報(日版マーク, トーハンゼロ
マーク)からの書誌データ一括登録
(現物はこの時点でNDLにない)

※Cx=Cataloging Status

C1(納本)
受取り完了

整理部門に引き渡し ↓ 目録作業開始

C3(納本後3~4日後)
人の目で確認

DC-NDL形式に変換

← C3時は更新ごと
に上書き反映

作成中書誌
(新着書誌情報)

?

作成中書誌
(新着書誌情報)

C5(C3作業完了後)
標目作業中

↓ 責任者確認

×
一括抽出に使用
できる日付
データがない(※)

作成完了書誌

DC-NDL形式に変換

C7(C3移行後30~40日後)
全データ確定

作成完了書誌

更新日付による抽出
RSS,OAI-PMH等

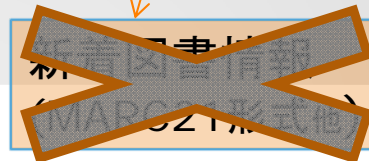
新着書誌情報
(DC-NDL形式)

作成完了書誌
(DC-NDL形式)

(日図協経由)

JAPAN/MARC
MARC21版

作成完了日付指定の書誌集合ファイルをDL



作成完了書誌
(MARC21形式他)

※NDL-OPACの書誌レコードには初期登録日・校閲日(作業完了日)・最終更新日があるが、C3移行日がないので現時点では新着書誌の日付集合を抽出できないとのこと

運用イメージ

出版情報

NDL

一括登録
(提供開始は納本の3~4日後)

NDL新着書誌

NII

NDLサーチから取得
DCNDL→CATP形式変換
CATに登録

CAT新着書誌

NDL

書誌修正
(30~40日)

NDL作成完了書誌

NII

NDLから取得
DCNDLorMARC21
→CATP形式変換
作成完了書誌の反映

CAT完成書誌

参加館

所蔵登録
書誌修正

新着書誌情報マッピング表 の作成と検討

- ・ ソースデータにはOAI-PMHにより取得できるDCNDL-RDF形式のデータを想定
- ・ CATPの項目リストをベースにしたマッピング表AとDCNDL-RDFの項目リストをベースにしたマッピング表Bを作成
- ・ 2つのマッピング表でどのように項目を割り振れるか、主にCATのマニュアルで重要とされる項目を中心に検討
- ・ 各マッピング表の右端列の記号がそれぞれの検討結果

見えてきた課題

①NDLとCATで互いに想定していない項目がある

②NDLの提供するデータとCATが必要としている
情報の内容・粒度が異なる場合がある

③機械的に特定の項目に対応させられない項目がある

④NDLとCATでは書誌作成単位が異なる

課題①NDLとCATで互いに 想定していない項目がある

- CATが必要としている項目がNDL側がない
…TTLL(タイトル言語コード)
- NDLが提供している項目のマッピング先がCATにない
…外部レコードID・標準番号等

既存項目と想定外項目の両方について、
必要性の検討が必要

課題②NDLの提供するデータとCATが必要としている情報の内容・粒度が異なる場合がある

- 互いに項目として存在するが粒度が異なる
…GMD/SMD (資料種別コード)
- 互いに項目として存在するが変換時
(MARC21→DC-NDL→CATP)にロスが発生する可能性がある
…CNTRY (出版国)・GMD/SMD (資料種別コード)

どんな情報がどんな粒度で必要なのか、
あらためて検討が必要

変換ロスを最小限にするためにNDLと濃密な
コミュニケーションが必要

課題③機械的に特定の項目に対応させられない項目がある

NDLサーチ

CAT

		(解釈一致時)	(解釈不一致時)
dcndl:partInformation	→ 普段内容著作, ・ ・でもたまたま本タイトル含む	CW 内容著作情報	内容著作情報 +本タイトル
dc:title	→ 普段本タイトル, ・ ・でもたまたまシリーズ情報かも	TR 本タイトル	シリーズ情報
dcndl:volume	→ 普段巻冊次, ・ ・でもたまたま本タイトルかも	VOL 巻冊次情報	巻冊次情報 +本タイトル
dcndl:seriesTitle	→ 普段シリーズ, ・ ・でもたまたま内容が減る	PTBL シリーズ情報	シリーズ情報

解釈が一致しない時でも特定の範囲内で情報の配置場所が異なるだけで内容的な欠損はない

より詳細な条件分析・設定による機械処理の可否についての検討が必要

課題④書誌作成単位が異なる

NDL

同じタイトルでも巻次が違えば
1冊ずつ個別に書誌を作るのが原則

タイトル：×物語
VOL：1巻

タイトル：×物語
VOL：2巻

タイトル：×物語
VOL：3巻

タイトル：×物語
VOL：4巻

CAT

同じタイトルなら1書誌にまとめて扱うのが原則

タイトル：×物語

VOL：1巻

VOL：2巻

VOL：3巻

そのままコピーすると
現在のCATの原則からは外れる

タイトル：×物語
VOL：4巻

機械処理により
どのような対処ができるかの検討が必要

再度、運用イメージ

出版情報

NDL

一括登録
(提供開始は納本の3~4日後)

NDL新着書誌

NII

NDLサーチから取得
DCNDL→CATP形式変換
CATに登録

5

新着書誌情報より早く誰かがCATに書誌を作っていたら？
→重複対策の検討が必要

CAT新着書誌

NDL

書誌修正
(30~40日)

7

NDL新着書誌情報の中には「完了」せずに削除されるものがある(JAPAN/MARC等で確認可能)→NDL側の書誌削除をCATにどう反映させるか？既に利用されていたら？

参加館

所蔵登録
書誌修正

NII

NDL作成完了書誌

NDLから取得
DCNDLorMARC21
→CATP形式変換
作成完了書誌の反映

6

参加館が実情に合わせるために完成前のCAT書誌を修正していたら？→参加館の修正作業とNDLの目録作業の双方を活かす方法は？

CAT完成書誌

まとめ：実務研修成果報告